

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密又は防護上の観点から  
公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-500 改 2
提出年月日	平成 30 年 9 月 4 日

日本原子力発電株式会社  
東海第二発電所 工事計画審査資料  
放射性廃棄物の廃棄施設  
気体，液体又は固体廃棄物処理設備  
液体廃棄物処理系  
(再生廃液処理系)

(本文)



## 放射性廃棄物の廃棄施設

### 2 気体、液体又は固体廃棄物処理設備

#### 2.2 液体廃棄物処理系

##### 2.2.3 再生廃液処理系

###### (1) 熱交換器

###### a. 廃液濃縮器加熱器

###### (4) 容器

###### a. 廃液中和タンク

###### b. 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク

###### (8) ろ過装置

###### a. 廃液濃縮器

###### (10) 主配管



## 2.2.3 再生廃液処理系

- (1) 熱交換器の名称，種類，容量，最高使用圧力（管側及び胴側の別に記載すること。），最高使用温度（管側及び胴側の別に記載すること。），伝熱面積，主要寸法，材料及び個数

				変 更 前	変 更 後
名 称				廃液濃縮器加熱器 <sup>*1</sup>	変更なし
種 類		—		たて置直管式 <sup>*2</sup>	
容 量 （ 設 計 熱 交 換 量 ） <sup>*3</sup>		MW/個		<input type="text"/> (4.88 <sup>*4, *6</sup> )	
管側	最 高 使 用 圧 力	MPa		0.34 <sup>*18</sup>	
	最 高 使 用 温 度	℃		149	
胴側	最 高 使 用 圧 力	MPa		0.34 <sup>*6</sup>	
	最 高 使 用 温 度	℃		149	
伝 熱 面 積		m <sup>2</sup> /個		<input type="text"/> (95.4 <sup>*4</sup> )	
主 要 寸 法	管 側	胴 内 径 <sup>*7</sup>	mm	901.7 <sup>*4</sup>	
		胴 板 厚 さ <sup>*8</sup>	mm	<input type="text"/> (6.35 <sup>*4</sup> )	
		鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (6.35 <sup>*4, *9</sup> )	
		鏡板の形状に係る寸法	mm	914.4 <sup>*4, *9</sup> (鏡板中央部内半径)	
				54.9 <sup>*4, *9</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
		平 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (38.1 <sup>*4, *9</sup> )	
		リサイクル入口管台外径	mm	406.4 <sup>*4, *11</sup>	
		リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.35 <sup>*4, *11</sup> )	
		リサイクル出口管台外径	mm	323.85 <sup>*4, *11</sup>	
		リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (6.35 <sup>*4, *11</sup> )	
		フランジ厚さ（上部）	mm	<input type="text"/> (50.8 <sup>*4, *9</sup> )	
		フランジ厚さ（下部）	mm	<input type="text"/> (51 <sup>*4, *10</sup> )	



(続き)

				変 更 前	変 更 後
主 要 寸 法	胴 側	胴 内 径	mm	889.0* <sup>4</sup>	変更なし
		胴 板 厚 さ* <sup>12</sup>	mm	<div></div> (12.7* <sup>4</sup> )	
	管 板 厚 さ		mm	<div></div> (50.8* <sup>4</sup> )	
	伝 熱 管 外 径		mm	50.8* <sup>4</sup>	
	伝 熱 管 厚 さ		mm	<div></div> (1.24* <sup>4</sup> )	
	高 さ* <sup>13</sup>		mm	6225.5* <sup>4</sup> , * <sup>14</sup>	
材 料	管 側	胴 板* <sup>15</sup>	—	SUS316L相当材 <div></div> 及びSUS316L* <sup>16</sup>	変更なし
		鏡 板	—	SUS316L* <sup>10</sup>	
		平 板	—	SB49相当材 <div></div> * <sup>9</sup>	
		フ ラ ン ジ （ 上 部 ）	—	SB49相当材 <div></div> * <sup>10</sup>	
		フ ラ ン ジ （ 下 部 ）	—	SM490A* <sup>10</sup>	
	胴 側	胴 板* <sup>5</sup>	—	SB35相当材 <div></div>	
		管 板	—	SUS316L相当材 <div></div>	
		伝 熱 管	—	SUS316LTB相当材 <div></div> 及びSUS316LTB* <sup>17</sup>	
個 数		—	2		

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器，加熱器」と記載。

\*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形固定管板式（二脚支持）」と記載。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「伝熱負荷」と記載。

\*4：公称値を示す。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。

\*6：S I 単位に換算したもの。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 内径」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴 厚さ」と記載。

\*9：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和50年3月

28日付け50資庁第1524号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄



物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。

- \*10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和50年10月11日付け建建発第144号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体・固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-2 廃液濃縮器加熱器」による。
- \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴 厚さ」と記載。
- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全長」と記載。
- \*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には、水室底部から上部フランジまでの高さである「6174.7」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「水室胴」と記載。
- \*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316LTB相当材 」と記載。記載内容は、設計図書による。
- \*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm<sup>2</sup>G～760 mmHg真空」と記載。記載内容は、正圧側をS I単位に換算したもの。



- (4) 容器の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料及び個数並びに漏えい防止のための制御方法

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液中和タンク	
種 類	—		たて置円筒形 <sup>*1</sup>	
容 量	m <sup>3</sup> /個		□ (68.2 <sup>*3</sup> )	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭 <sup>*4</sup>	
最 高 使 用 温 度	℃		100	
主 要 寸 法	胴 内 径 <sup>*5</sup>	mm	3400 <sup>*3</sup>	
	胴 板 厚 さ <sup>*6</sup>	mm	□ (8 <sup>*3</sup> )	
	鏡 板 厚 さ <sup>*8</sup>	mm	□ (12 <sup>*3</sup> )	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	3400 <sup>*3</sup> , <sup>*9</sup> (鏡板中央部内半径)	
			340 <sup>*3</sup> , <sup>*9</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	平 板 ( 屋 根 ) 厚 さ	mm	4 <sup>*3</sup> , <sup>*10</sup>	
	出 口 管 台 外 径	mm	114.3 <sup>*3</sup> , <sup>*7</sup>	
	出 口 管 台 厚 さ	mm	□ (6.0 <sup>*3</sup> , <sup>*7</sup> )	
	入 口 管 台 外 径	mm	165.2 <sup>*3</sup> , <sup>*11</sup>	
	入 口 管 台 厚 さ	mm	7.1 <sup>*3</sup> , <sup>*11</sup>	
	高 さ	mm	8476 <sup>*3</sup> , <sup>*12</sup>	
材 料	胴 板 <sup>*13</sup>	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
個 数	—		2	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法		—	—	

変更なし

注記 \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（スカート支持）」と記載。

\*2：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ 計算書および説明書」による。

\*3：公称値を示す。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「大気圧」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。



- \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和48年11月24日付け48資庁第2852号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- \*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。
- \*9：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年4月25日付け建建発第14号にて届け出した工事計画の添付書類「Ⅲ-1-2 液体固体廃棄物処理施設の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-2-4 廃液中和タンク」による。
- \*10：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- \*11：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には、胴の高さである「7800」と記載。記載内容は、昭和49年3月11日付け建建発第160号にて届け出した工事計画の添付図面「第3-11図 廃液中和タンク構造図」による。
- \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。



			変 更 前	変 更 後
名 称			廃棄物処理建屋高電導度 ドレンサンプタンク	
種 類	—		たて置円筒形	
容 量	m <sup>3</sup> /個		□ (8.2 <sup>*1</sup> )	
最 高 使 用 圧 力	MPa		静水頭	
最 高 使 用 温 度	℃		65	
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1700 <sup>*1</sup>	
	胴 板 厚 さ	mm	□ (10.0 <sup>*1</sup> )	
	鏡 板 厚 さ	mm	□ (10.0 <sup>*1</sup> )	
	鏡 板 の 形 状 に 係 る 寸 法	mm	1700.0 <sup>*1, *2</sup> (鏡板中央部内半径)	
			170.0 <sup>*1, *2</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	オーバフロー入口 管 台 外 径	mm	165.2 <sup>*1, *2</sup>	
	オーバフロー入口 管 台 厚 さ	mm	□ (7.1 <sup>*1, *2</sup> )	
材 料	高 さ <sup>*3</sup>	mm	3740 <sup>*1, *4</sup>	
	胴 板	—	SUS316L	
	鏡 板	—	SUS316L	
個 数			1	
漏 え い 防 止 の た め の 制 御 方 法 <sup>*5</sup>			液位高によるポンプ1台目 自動起動回路 液位高高によるポンプ2台目 自動起動回路	

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和58年12月13日付け58資庁第15229号にて認可された工事計画の添付書類「V-2-2-1-3 再生廃液処理系の強度計算書」のうち、「V-2-2-1-3-(1) 廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク」による。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「全高」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には、脚からタンク上端部までの高さである「3810」と記載。記載内容は、設計図書による。



\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「制御方法」と記載。

\*6：既工事計画書に記載がないため，記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。



(8) ろ過装置の名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料及び個数

			変 更 前	変 更 後
名 称			廃液濃縮器	
種 類	—		たて置円筒形* <sup>1</sup>	
容 量* <sup>2</sup>	m <sup>3</sup> /h/個		<input type="text"/> (6.8* <sup>3</sup> )	変更なし
最 高 使 用 圧 力	MPa		0.34* <sup>4</sup>	
最 高 使 用 温 度	℃		105	
主 要 寸 法	胴 内 径* <sup>5</sup>	mm	2400* <sup>3</sup>	
	胴 板 厚 さ* <sup>6</sup>	mm	<input type="text"/> (10* <sup>3</sup> )	
	鏡 板 厚 さ* <sup>13</sup>	mm	<input type="text"/> (10* <sup>3</sup> )	
	円すい形鏡板厚さ* <sup>13</sup>	mm	<input type="text"/> (10* <sup>3</sup> )	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	2400* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> (鏡板中央部内半径)	
			240* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> (鏡板隅の丸み半径)	
	円すい形鏡板の形状に係る寸法	mm	240* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> (すその丸み半径)	
	リサイクル入口管台外径	mm	318.5* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup>	
	リサイクル入口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10.3* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> )	
	リサイクル出口管台外径	mm	508* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup>	
	リサイクル出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> )	
	蒸気出口管台外径	mm	508* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup>	
	蒸気出口管台厚さ	mm	<input type="text"/> (10* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> )	
	胴 フ ラ ン ジ 厚 さ	mm	<input type="text"/> (82* <sup>3</sup> , * <sup>7</sup> )	
	高 さ	mm	5402.2* <sup>3</sup> , * <sup>9</sup>	
材 料	胴 板* <sup>10</sup>	—	SUS316L	
	鏡 板* <sup>11</sup>	—	SUS316L相当材 <input type="text"/> * <sup>12</sup>	
	円すい形鏡板* <sup>11</sup>	—	SUS316L * <sup>12</sup>	
	胴 フ ラ ン ジ	—	SF45* <sup>7</sup>	
個 数	—		2	



- 注記
- \*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形（四脚支持）」と記載。
  - \*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「処理流量」と記載。
  - \*3：公称値を示す。
  - \*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm<sup>2</sup>G～760 mmHg真空」と記載。記載内容は、正圧側をS I単位に換算したもの。
  - \*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内径」と記載。
  - \*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴板厚」と記載。
  - \*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年5月24日付け51資庁第1613号にて認可された工事計画の添付書類「Ⅲ-1-3 液体固体廃棄物処理系機器・配管の規格計算書」のうち、「Ⅲ-1-3-1 廃液濃縮器」による。
  - \*8：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
  - \*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には、リサイクル出口管台から上部鏡板までの高さである「5551.2」と記載。記載内容は、設計図書による。
  - \*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「胴」と記載。
  - \*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板」と記載。
  - \*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「SUS316L相当材  および SUS316L」と記載。
  - \*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「鏡板厚」と記載。



(10) 主配管の名称，最高使用圧力，最高使用温度，外径，厚さ及び材料

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A ～ 廃液中和タンク入口管合流点		1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし				
					48.6	3.7*1	SUS316LTP						
					76.3	5.2*1	SUS316LTP						
					76.3	5.2*1	SUS316TP						
	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A 出口管合流点		1.03*2	65	60.5	3.9*1	SUS316LTP		変更なし				
					48.6	3.7*1	SUS316LTP						
	*3 廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管		1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP		変更なし				
					76.3	3.5*1	SUS316TP						
	*4 廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク		1.03*2	65	165.2	7.1*1	SUS316TP		変更なし				
	*5 廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ		1.03*2	65	114.3	6.0*1	SUS316TP						
					60.5	3.9*1	SUS316TP						
					48.6	3.7*1	SUS316TP						
	*6 廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁 G13-F1612A, B		1.03*2	65	48.6	3.7*1	SUS316TP		変更なし				







(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 <sup>*1</sup> (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A 吸込管	*7 1.03 <sup>*2</sup>	65	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316TP	再生 廃液 処理系	変更なし					
		1.03 <sup>*20</sup>	65	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316TP							
			105	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316LTP							
	弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B 吸込管	*8 1.03 <sup>*2</sup>	65	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316TP		変更なし					
		1.03 <sup>*20</sup>	65	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316TP							
			105	48.6	3.7 <sup>*1</sup>	SUS316LTP							
	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	*9 0.34 <sup>*21</sup>	105	508.0	<div> </div> (6.5 <sup>*1</sup> )	SUS316LTP		変更なし					
	廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	*10 0.34 <sup>*21</sup>	105	508.0	<div> </div> (6.5 <sup>*1</sup> )	SUS316LTP							
	廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	*11 0.34 <sup>*21</sup>	105	406.4	<div> </div> (6.5 <sup>*1</sup> )	SUS316LTP							
	廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	*12 0.34 <sup>*21</sup>	105	406.4	<div> </div> (6.5 <sup>*1</sup> )	SUS316LTP		変更なし					



(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	0.34*21	105	318.5	 (6.5*1)	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし					
	廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	0.34*21	105	318.5	 (6.5*1)	SUS316LTP		変更なし					
	廃液濃縮器 A*13 ～ 廃液濃縮器復水器 A	0.06*22	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP		変更なし					
	廃液濃縮器 B*14 ～ 廃液濃縮器復水器 B	0.06*22	105	508.0	 (6.5*1)	SUS304TP		変更なし					
	廃液濃縮器復水器 A*15 ～ 凝縮水収集タンク	1.03*20	65	89.1	4.0*1	SUS304TP		変更なし					
				76.3	3.5*1	SUS304TP							
廃液濃縮器復水器 B*16 ～ 凝縮水収集タンク	1.03*20	65	89.1	4.0*1	SUS304TP		変更なし						
			76.3	3.5*1	SUS304TP								



(続き)

変 更 前							変 更 後						
名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称		最高使用 圧 力 (MPa)	最高使用 温 度 (℃)	外 径 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
再生 廃液 処理系	*17  廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ	1.03*20	105	48.6	3.7*1	SUS316LTP	再生 廃液 処理系	変更なし					
				60.5	3.9*1	SUS316LTP							
		1.03*2	100	60.5	3.9*1	SUS316LTP							
	*18  濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	1.03*2	100	60.5	3.9*1	SUS316LTP							

注記 \*1：公称値を示す。

\*2：S I 単位に換算したもの。

\*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃棄物処理棟高電導度ドレンサンプポンプ“A” “B” 吐油管（高電導度ドレンサンプポンプより廃液中和タンク“A” “B” 入口管まで）」と記載。

\*4：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液中和タンク“A” “B” 入口管」と記載。

\*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” 吸込管（廃液中和タンク“A” “B” より廃液濃縮器供給ポンプまで）」と記載。

\*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“A” “B” より出口弁まで）」と記載。

\*7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“A” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“A” 出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吸込管まで）」と記載。

\*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器供給ポンプ“B” 吐油管（廃液濃縮器供給ポンプ“B” 出口弁より廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吸込管まで）」と記載。

\*9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吸込管（廃液濃縮器“A” より廃液濃縮器循環ポンプ“A” まで）」と記載。

\*10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吸込管（廃液濃縮器“B” より廃液濃縮器循環ポンプ“B” まで）」と記載。

\*11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“A” 吐油管（廃液濃縮器循環ポンプ“A” より廃液濃縮器加熱器“A” まで）」と記載。

\*12：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ“B” 吐油管（廃液濃縮器循環ポンプ“B” より廃液濃縮器加熱器“B” まで）」と記載。

\*13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“A” 出口管（廃液濃縮器“A” より廃液濃縮器復水器“A” まで）」と記載。

\*14：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器“B” 出口管（廃液濃縮器“B” より廃液濃縮器復水器“B” まで）」と記載。

\*15：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“A” 出口管（廃液濃縮器復水器“A” より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

\*16：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器復水器“B” 出口管（廃液濃縮器復水器“B” より凝縮水収集タンクまで）」と記載。

\*17：記載の適正化を行う。既工事計画書には「廃液濃縮器循環ポンプ A, B より濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C ヘッダまで」と記載。

\*18：記載の適正化を行う。既工事計画書には「濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C ヘッダより濃縮廃液貯蔵タンク A, B, C まで」と記載。

\*19：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 12 日付け 51 資庁第 12241 号にて認可された工事計画の添付書類「IV-1-5 液体固体廃棄物処理系配管の規格計算書（Ⅲ-1-3-5）」による。

\*20：記載の適正化を行う。既工事計画書には「10.6 kg/cm<sup>2</sup>～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。\*21：記載の適正化を行う。既工事計画書には「3.5 kg/cm<sup>2</sup>～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。\*22：記載の適正化を行う。既工事計画書には「0.7 kg/cm<sup>2</sup>～760 mmHg 真空」と記載。記載内容は、正圧側を S I 単位に換算したもの。



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (16/30)

			変 更 前					変 更 後				
設備 区分	系統 名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は固体廃棄物処理設備	液体廃棄物処理系	再生廃液処理系	熱交換器	廃液濃縮器加熱器	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—		
			容器	廃液中和タンク	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—		
				廃棄物処理建屋高電導度ドレンサンプタンク	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—		
			ろ過装置	廃液濃縮器	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—		
		主配管	廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A ～ 廃液中和タンク入口管合流点	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ B ～ 廃棄物処理建屋 高電導度ドレンサンプポンプ A 出口管合流点	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			廃棄物処理棟 高電導度ドレンサンプポンプ ～ 廃液中和タンク入口管	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			廃液中和タンク入口管 ～ 廃液中和タンク	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			廃液中和タンク ～ 廃液濃縮器供給ポンプ	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			廃液濃縮器供給ポンプ ～ 弁 G13-F1612A, B	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			弁 G13-F1612A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A 吸込管	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			
			弁 G13-F1612B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B 吸込管	B－1	クラス3	—	変更なし	—	—			



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (17/30)

			変 更 前					変 更 後				
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1	
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
気体， 液体又は 固体廃棄物 処理設備	液体廃棄物 処理系	再生廃液 処理系	主配管	廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器循環ポンプ A	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器循環ポンプ B	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ A ～ 廃液濃縮器加熱器 A	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ B ～ 廃液濃縮器加熱器 B	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器加熱器 A ～ 廃液濃縮器 A	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器加熱器 B ～ 廃液濃縮器 B	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器 A ～ 廃液濃縮器復水器 A	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器 B ～ 廃液濃縮器復水器 B	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器復水器 A ～ 凝縮水収集タンク	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器復水器 B ～ 凝縮水収集タンク	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				廃液濃縮器循環ポンプ ～ 濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－
				濃縮廃液貯蔵タンクヘッダ ～ 濃縮廃液貯蔵タンク	B－1	クラス 3	－		変更なし		－	－



表1 放射性廃棄物の廃棄施設の主要設備リスト (30/30)

				変 更 前				変 更 後					
設備区分	系統名	機器区分	名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		名 称	設計基準対象施設 *1		重大事故等対処設備 *1		
				耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス		耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス	
気体・ 液体又は固体廃棄物処理設備	その他	その他 (排気筒)	排気筒	主排気筒	C-1	—	—	変更なし			—	—	
				非常用ガス処理系排気筒	S	—	—						変更なし

注記 \*1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。  
\*2：当該ラインについては、主配管に該当しないため、記載の適正化を行う。